

普及活動情勢報告（平成30年12月分）

高吾農業改良普及所

第2回 環境制御技術勉強会を行いました。



講習を聞く生産者

12月12日に5名の生産者が参加し、第2回の環境制御技術（新規就農者）勉強会が行われました。

勉強会では、コスモスアグリサポートの高糖度トマトハウスで現地検討を行い、耕種概要や生育状況を確認し、参加者からは栽培管理などについて質問がありました。その後、座学として温度管理について普及所が講習を行い、参加者の温度データを事例として、晴天時や曇雨天時の温度管理の方法について生産者間で質問が行われるなど、活発な意見交換が行われました。

普及所としては今後も引き続き、この勉強会に対して支援を行っていきます。

これからの活動に向けて ～はちきん農業大学先進事例研修反省会～



研修先のほ場視察

先進事例研修（香川県Sun so）に参加したニラの女性農業者に呼び掛けて、11月21日に反省会を開催し、8名が参加しました。

研修に参加した感想や、今後取り組みたい内容についてのアンケート調査結果を報告後、各自からも発言してもらい、「労務管理が参考になった」「ホワイトボードは取り入れたい」などといった声がありました。今後の活動としては、現地検討会の開催や、他産地のそぐりセンターの視察、ニラを使ったレシピの開発などを行ってはどうか、という前向きな意見が聞かれました。

普及所は、年明けに現地検討会を行う予定です。

加工用ワサビの栽培が始まりました！



ハウス内での定植作業

11月29日から越知町で加工用ワサビの定植が始まりました。昨年は例年以上に寒く、反収は減少してしまいました。そこで、少しでも暖かい時期に定植したいとの要望があり、いの町農業公社での播種作業が昨年より早い時期から始まり、ようやく定植となりました。

今年は暖冬との見通しのため生育は比較的順調に推移する一方で、病害虫の発生が多くなることが予想されるため、普及所としては、定期的な巡回と病害虫防除の周知により加工用ワサビの安定生産に向けて支援していきます。

いちごの出荷が始まりました。



みんなで規格を確認

11月30日にJAコスモス佐川苺部会の園めぐりが行われ、16戸の農家が現地ほ場に集まり収穫期に向けた管理を検討しました。普及所からは防除についての情報提供のほか、新品種「恋みのり」について現在行っている調査を説明しました。その後「ゆめのか」の目慣らしが行われ、ゆめのかの等級について全員で確認しました。

今後は春先に向けた防除指導と、新品種「恋みのり」の導入検討を支援していきます。

日高村トマト農家での農福連携「お仕事体験会」開催



農家からの説明を受ける
参加者と福祉関係者

12月4日、日高村のトマト農家で農福連携「お仕事体験会」を開催し、就労継続支援B型事業所（特非）日高わのわ会から2名が参加しました。普及所が作成したビデオにより、ハウス作業の留意点やトマト収穫作業のポイントを勉強した後、収穫作業体験を行いました。参加者からは、もっと続けたいとの声があり、1日2～3時間で12月14日まで続けるとしました。その後、1名が本格就労へ向けた試用期間として、農家で働くことが決まりました。

普及所では、日高村を中心とした農福連携の実施に向けさらにサポートしていきます。

（農）ヒューマンライフ土佐が柴胡（ミシマサイコ）生産者説明会を開催



ミシマサイコ摘芯試験・
生産者説明会

11月26日、ヒューマンライフ土佐が平成30年のミシマサイコの収穫・出荷および次作の作付けについて説明会を開催し、生産者ら70名以上が参加しました。特に、出荷時の品種ごとの分別や異物混入など注意点が周知されました。

普及所からは、摘芯条件を変えた時の収量やモミガラ被覆による発芽不良対策の実証結果を紹介しました。

普及所ではこれからも薬用作物の生産安定に向け支援していきます。